

病害虫発生予報 第7号(10月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所
TEL 0736(64)2300

< 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花 き全般	シロイチモンジヨトウ オオタバコガ ハスモンヨトウ タバココナジラミ オンシツコナジラミ ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	並
エンドウ	褐斑病、褐紋病 つる枯細菌病 うどんこ病	並 並 並			やや少
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	並			並
野菜・花 き全般	アブラムシ類 ハダニ類	並 紀北地域 ：並 紀中地域 ： やや多	カンキツ	ミカンハダニ	やや少
			果樹全般	カメムシ類	紀北・有田地 域： やや多 日高・西牟婁 地域： 多

気象予報

1か月予報（予報期間 9月28日～10月27日 大阪管区气象台）

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わって来ます。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

10月	月平均気温 (平年値) (°C)		月降水量 (平年値) (mm)	
	和歌山	18.8	和歌山	122
潮岬	19.8	潮岬	244	

I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の施設栽培ミニトマトにおける発生ほ場率は9月5半旬現在、0%（過去7年間の平均3.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では防虫ネット（目合い0.4mm以下）で開口部を被覆する。

② タバココナジラミの初期徹底防除に努める。

③ 感染株は見つけしだい根元から抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋で密封して枯死させる。

④ 家庭菜園を含む露地栽培トマトについては、栽培終了後は速やかに全株を引き抜いて野積みにし、古ビニルなどで覆って2週間以上密封してタバココナジラミを死滅させる。

⑤ 雑草はタバココナジラミの発生源となるため、ほ場周辺を含め除草を徹底する。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月4半旬現在、0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 抑制栽培では、開花期ごろからの発生に注意する。

② 多湿ほ場で発生しやすいので、排水に留意する。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月4半旬現在、0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が酷似するので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットの発病抑制効果は高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月4半旬現在、0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 莢形成期以降に発生しやすい。乾燥条件が続くと発生が多くなる。

② 発生初期より防除を行う。

<ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる9月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市0頭（平成0.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を抑制するために、作用機構が異なる薬剤間でローテーション散布を行う。

② キャベツ、ハクサイでは、収穫後に作物残さを放置するとそこが発生源になり、周辺のほ場に成虫が分散して発生が多くなる。したがって、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は22%（平成18%）、寄生葉率は1.1%（平成1.6%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は11%（平成25%）、寄生葉率は0.6%（平成4.4%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～4半旬の飛来数は、7頭（平成67頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。

② イチゴなどハウス栽培では定植前後の防除を徹底する。

③ ワタアブラムシに対してネオニコチノイド系薬剤の感受性低下がみられる地域があるので注意する。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 紀北地域：並 紀中地域：やや多

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬のナミハダニの発生ほ場率は11%（平成15%）、寄生葉率は1.1%（平成2.6%）、カンザワハダニの発生ほ場率は11%（平成19%）、寄生葉率は0.6%（平成3.3%）であった。

② 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬現在、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）の発生ほ場率は60%（平成22%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① キクに発生したナミハダニが移動するので、キク栽培ほ場に近いほ場では特に発生に注意する。

3. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬の発生ほ場率は25%（平成29%）、寄生株率は2.5%（平成5.4%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市15頭（平成28頭）、御坊市45頭（平成41頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

4. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬の発生ほ場率は20% (平年20%)、寄生株率は2.0% (平年2.5%) であった。

② フェロモントラップによる9月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市18頭 (平年7.8頭)、御坊市2頭 (平年3.9頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 若齢幼虫期の防除を徹底する。中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下し、また、生長点付近の芯部や花・果実内に食入するので防除が困難になる。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬の発生ほ場率は11% (平年37%)、寄生葉率は1.1% (平年2.9%) であった。

② 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月4半旬の発生ほ場率は5% (平年36%)、寄生株率は0.5% (平年5.5%) であった。

③ フェロモントラップによる9月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市485頭 (平年308頭)、和歌山市1,598頭 (過去2年の平均1,303頭)、御坊市846頭 (平年472頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

6. タバココナジラミ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬の発生ほ場率は11% (平年38%)、寄生葉率は0.6% (平年9.3%) であった。

7. オンシツコナジラミ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬の発生ほ場率は44% (平年36%)、寄生葉率は3.9% (平年5.6%) であった。

8. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬の発生ほ場率は33% (平年63%)、寄生葉率は7.8% (平年26.9%) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。防虫ネットを被覆して成虫の飛び込みを防ぐ(「防除指針」参照)。

9. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月4半旬の発生ほ場率は11% (平年2.5%)、寄生葉率は0.6% (平年0.6%) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

Ⅱ．果 樹

<カンキツ>

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県予察ほ場（無防除および慣行防除）における9月中旬の発生は認められなかった。

② 紀北地域（海南市下津）、紀中地域、紀南地域（田辺市）における9月4半旬の発生園率は10%（平成33%）、寄生葉率は平均3.9%（平成7.6%）であった。

③ 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を抑制するため、同一薬剤の連用を避ける。

② ハダニの発生が確認された園では、早急に薬剤散布を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 紀北・有田地域：やや多 日高・西牟婁地域：多

(2) 予報の根拠

① 紀北地域のカキにおける9月4半旬の被害果率は「富有」で0.1%（平成7.9%）、「刀根早生」・「平核無」で0.0%（平成0.9%）であった。

② 紀の川市粉河の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、9月4半旬56頭（平成51頭）、5半旬74頭（平成46頭）とやや多かった。

③ 有田川町の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、9月4半旬は0頭（平成3頭）であったものの、5半旬は30頭（平成1頭）とやや多かった。

④ みなべ町の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、9月4半旬4,866頭（過去3年の平均481頭）、5半旬8,365頭（過去3年の平均46頭）と多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接園では早くから被害が出やすい。

② 園内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

③ 台風通過後一時的に果樹園への飛来が増加する場合がありますので注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブサイト <農作物病虫害防除所コーナー>

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。